

全国につながる 連携の輪



「キャプテン翼CUPかつしか2017」に参加した青木克徳葛飾区長(左)と原作者の高橋陽一氏＝葛飾区奥戸陸上競技場にて

人気作品を観光資源に連携・交流

葛飾区は、同区出身の漫画家・高橋陽一氏が描いたサッカー漫画『キャプテン翼』や、同区柴又を舞台とした映画『男はつらいよ』といった作品を区の観光資源づくりに活用し、その集客力を活かした自治体間連携に取り組んでいます。毎年1月にはU-12ジュニアサッカー大会「キャプテン翼CUPかつしか」、11月には「寅さんサミット」を開催し、人気作品ゆかりの自治体が集まり、交流を深めています。

集客力のあるコンテンツを有効活用

ボールがつなぐ絆と友情

『キャプテン翼』の原作者・高橋陽一氏は、葛飾区出身で、同漫画に登場する「南葛市」や「南葛SC」などの名称は原作者が卒業した都立南葛飾高等学校にちなんでいます。

葛飾区は、公園などに8体の人気キャラクターの銅像を建てるなど、同漫画を活用した観光資源づくりに進めています。

毎年1月には、『キャプテン翼』を再現したような少年サッカー大会「キャプテン翼CUPかつしか」を開催しており、来年の1月で3回目を迎えます。1月6日と7日、東新小岩にある私学事業団総合運動場で開催され、全国から集まるU-12の

16チームが頂点を目指して戦います。このイベントが、自治体間連携の舞台にもなっていて、全国の作品ゆかりの地から少年サッカーチームが葛飾区に集まり、サッカー少年たちが交流を深めます。

また、サッカーファンや『キャプテン翼』ファンなら泣いて喜ぶイベントも同時に行われます。「南葛SC」トップチームと、元日本代表の北澤豪氏が率いる豪華ゲストチーム「東邦学園」によるエキシビジョンマッチです。「南葛SC」と言えば、『キャプテン翼』の主人公・大空翼が率いて小学生時代に全国大会を制覇したチームです。「東邦学園」は、翼くんのライバル・日向小次郎が在籍したチームです。

ふるさとマーケットを開催

地方都市と地元が連携して

昨年12月16日と17日、葛飾区・地方都市・地元店舗・地域住民らが連携した「ふるさとマーケット」が、金町地区センターで開催されました。東北の震災復興の一環として、初日には秋田県鹿角市、福島県湯川村、新潟県十日町市、茨城県が参加し、名産品や特産品を一堂に集め、販売しました。

18日には規模を拡大し、金町駅前団地広場で、「ふるさとマーケット・クリスマスマーケット」として開催。「ふるさとマーケット」には4店に加えて、北海道や山形県などから6店、「クリスマスマーケット」には金町地域の人気店舗15店が出店し、温かいドリンクやクリスマスメニュー、雑貨が並びました。

ステージではゴスペルやジャズ、吹奏楽が演奏され、金町駅周辺にもイルミネーションが点灯するなど、区・地方都市・地元店舗・地域住民らが協力して、クリスマスの雰囲気を取り上げました。

今年も、昨年参加した自治体に加えて、熊本地震の被災地などの自治体も参加して、12月17日に開催される予定です。



昨年のふるさとマーケット



ロケ地の自治体が集まった「寅さんサミット」

2017（平成29）年の11月25日と26日に開催したサミットでは、ロケ地の17地域の自治体や観光協会が参加し、

葛飾区は2015（平成27）年から毎年、『男はつらいよ』のロケ地となった自治体を集めた「寅さんサミット」を、映画の舞台となった柴又帝釈天参道周辺などを会場に開催しています。今年で3回目を迎えました。

寅さんが旅をした自治体が一堂に

『男はつらいよ』は、山田洋次氏

作品のストーリーが、全国から集まる少年サッカーチーム同士の対戦を中心に成り立っていますから、作品ゆかりの地が全国に散らばっています。これが、自治体間連携を進める上で、大きな資源となっていると言えるでしょう。

が監督・脚本を務めた国民的人気映画で、これまで全48作が制作されました。寅さんが旅先で出会ったマドンナに恋をして、葛飾区柴又に戻ってきては騒動を巻き起こす人情喜劇です。

区内には、今年開館から20周年を迎えた「寅さん記念館」や、併設する「山田洋次ミュージアム」があり、国内外から多くの観光客が柴又の地を訪れています。

特設ブースで特産品の販売などを行っていました。ゆかりの地域同士が交流し、それぞれの魅力を発信する場になりました。

柴又帝釈天参道の各店舗では、イベント限定で復活する「寅さんメニュー」や、サミット参加地域特産品とコラボレーションで開発した「コラボメニュー」などを販売し、イベント限定品を求める多くの来場者でにぎわいました。

会場では、全国ロケ地の原風景写真展や、サミット参加地域の文化・芸能を上演するなど、日本の原風景の魅力を捉え直すきっかけとなりました。

2日間合わせたイベント来場者数

は8万8千人でした。シリーズ終了後も寅さんが大きな人気を維持していることを伺わせます。

高いポテンシャルを持った人気作品

『キャプテン翼』も、『男はつらいよ』も、知らない人はいないほどの国民的人気を誇る作品で、その登場人物は子供から大人まで、多くの日本人に愛されています。区は、この非常に高いポテンシャルを持った作品を、区の観光資源づくりに最大限生かしています。

全国連携という観点で言えば、全国の少年サッカーチームと試合を繰り広げる「大空翼」、全国津々浦々

まで旅している「寅さん」は、全国に数多くの足跡（ゆかりの地）を残しています。

これらの自治体の中には、イベントでつながるだけでなく、秋田県鹿角市かのしのように葛飾区と包括協定を結び、さらに連携・交流を深めている自治体もあります。

元々、同区よつぎ小学校に通う児童と鹿角市の児童が40年以上にわたる「自然体験」や「都市体験」などを通じて交流を深めてきました。そして、鹿角市は「男はつらいよ」のロケ地でもあり、『キャプテン翼』に登場する「立花兄弟」の出身地として「寅さんサミット」や「キャプテン翼CUPかつしか」にも参加し

ました。

区の担当者は「集客力のあるコンテンツを観光資源として活かすことで、葛飾区はもとより、ゆかりの地方都市のことも、より多くの人たちに知ってもらおうきっかけになります。また、区民にとってもその自治体のことを知る機会になり、ゆかりの地の観光や特産品の購入につながることもできます」と話します。

『キャプテン翼』『男はつらいよ』という国民的人気のコンテンツを起爆剤にして、全国のゆかりの地同士が連携することで、葛飾区と全国の自治体が相互に地域経済の活性化に寄与する。これが、葛飾区にとっての全国連携の強みだと言えるでしょう。

大凧揚げを通じた



荒川河川敷で開催された堀切大凧揚げ大会

昨年12月、荒川河川敷の堀切水辺公園で「第9回堀切大凧揚げ大会」が開催されました。地元の葛飾区立堀切中学校卒業生を中心に組織する堀切大凧揚げ大会実行委員会、葛飾区、葛飾区教育委員会の主催です。

新潟との交流

白根大凧合戦で有名な新潟県から、白根大凧合戦実行委員会の委員で、審判員を務める凧揚げ師・荏原正雄さんが駆け付けました。新潟県白根との結び付きは、以前、堀切中学校同窓会で会長をしていた方の両親が新潟市を郷里としていた縁です。堀切中学校では授業の一環で日本の伝統文化である凧揚げについて学習しており、生徒が揚げた小凧は事前学習として各自手作りで作成しました。

大会で飛ばす六角凧は、新潟県白根より和紙を取り寄せて作られたものです。会場には12畳（縦5.4m・横3.6m）の大凧を2基展示。大凧を見ようと会場に訪れた人でにぎわいました。会場には新潟県の特産品販売ブースも設けられ、笹だんごや日本酒などを求める来場者の姿がありました。

市民同士の交流がきっかけで始まった凧揚げ大会は、今年12月16日に10回目の節目を迎えます。



葛飾区と鹿角市の包括協定締結式